

地域の「やってみたい」を応援する情報誌

みんな



そのときのために

東日本大震災以降、台風や大雨など甚大な自然災害が各地で起きています。私たちがこのまちでこれからも暮らしていくためには、災害に対してどのように向き合っていけばいいのでしょうか。そのヒントとなる活動を行っている団体の話を聞きました。

緩やかな

つながりをつくろう



そのときのために

「大きな災害が起きた時、被災した人に寄り添った息の長い支援をしよう。そのために団体や組織、個人が日ごろからお互いのことを知り、つながっていこう」と昨年「四街道みんなで災害支援ネットワークの会」が立ち上がりました。初年度は講座を3回行い、メーリングリストやFacebookページで情報の発信、交換をしながら緩やかなつながりを目指した活動を行っています。

東日本大震災から10年を迎えた3月、この会ではオンラインシンポジウム「そしてつなげよう、明日へ」を開催しました。話し手は、宮城県名取市閉上^{ゆりあげ}で被災し、現在は四街道市内外で子ども支援に関わる仕事をする関口^{えみこ}笑子さん。

最初に「避難所を運営していたのは被災者自身です」と語りました。普段から地域の課題として挙がっていることは、災害時により顕著になり、事態を困難にしたそうです。しかし同時に関口さんは、避難所生活で感じた不満や不安は日常の中でも

誰かが感じているものであり、実はすでにそれを解決しようと動いている団体が地域にはあるのでは、と指摘します。団体が日常的に行っていることを自ら発信し地域住民と共有していれば、災害が起きても迅速に行動が起こせるかもしれません。

地域のチカラで

災害時に備え具体的に活動している団体の一つに「和良比小避難所運営委員会」があります。

「東日本大震災直後の自治会総会で、自治会はこの災害で何をしましたか？という会員からのひと言もあり、美しが丘に自主防災組織が設置されました」と話すのは阿部欽三事務局長。さらに和良比小学校区の八つの区・自治会による近隣区自治会連絡会を活用し、3年の歳月をかけて平成26年和良比小避難所運営委員会を立ち上げました。以降月1回の事務局会議のほか、避難所開設・運営訓練の実施など活発な活動でそのときに向けて備えています。

これまで7回に及ぶ避難所開設・

運営訓練で得たものは大きく、阿部さんは「第一に人的蓄積。延べ2000人も地域の皆さんが訓練に参加し、避難所体験をしていることです。また、運営役員と共に30人以上が登録、活動する会員ボランティアには、看護師や教師などスキルを持つ方もおり、避難所運営の大きな力となっています。第二に実践的な訓練でノウハウが蓄積されていることも貴重な財産です。今後これらの活動を継続し地域の蓄積を増やしたいです」。

「誰かが必要とする限り」。和良比小避難所運営委員会の合言葉です。



一昨年の和良比小避難所開設・運営訓練から

連絡先

●和良比小避難所運営委員会
<https://facebook.com/208580473215474/>
電話：080-9404-8615（阿部）

普段から顔の見える 関係づくりを

連絡先

● NPO 法人四街道メダカの会

<https://yotsukaido-medakanokai.jimdo.com/>

電話：090-4204-3741（任海）

● 森林ボランティア 四街道フォレスト

<https://facebook.com/yotsukaidou.forest/>



倒木処理を行うフォレストの皆さん

オンラインシンポジウムの話し手を務めた関口さんはまた「まちには人がすんでいます」をスローガンに子どもと地域、学校、企業などを結びイベントに積極的に関わっています。大切にしているのは日ごろからご近所同士互いに関心を持ち、知っている誰かを増やしておこうということ。

普段から顔の見える関係づくりをしていることでスムーズに災害支援に結びつくこともあります。

災害発生直後は災害ボランティアセンターが設置されますが、その後時間と共にニーズが変化する被災者の支援にはさまざまな力が必要になってきます。

「NPOこそ災害復興を最後まで主体的に担うことができるのではないでしょうかと語るのは、「NPO 法人四街道メダカの会」と「たろやま会」の代表を務め、環境保全活動を行う任海正衛さん。自然は子どもたちにとって優れた遊び場であり、大人が心の豊かさを実感する場所——任海さんが活動する栗山や成山では、地域の自然を守りながら、市内の野

できることを持ち寄って

万が一災害が起こった時、これまで培ってきた活動や仕事のスキル、趣味など自分のできることを活かし、「誰かの役に立つ」。それはどんな時にも前を向くための大きな力になります。

自分自身ができることは何でしょうか。それを求めている人はきっといます。また反対に苦手なこと、困っていることは何でしょうか。助けてくれる人もきっといます。支援する人、される人という枠を超え「おたがいさま」の気持ちを持つことで災害に強い地域ができていくのではないのでしょうか。

普段から支え合える関係づくりをすることで得られる安心感、人と人との温かみを感じることでできる地域にしていきませんか。

外保育や環境保全の団体、障害者施設などが普段からつながり、活動を共にしています。「どのよう活動するかはその団体ごとに異なります。それぞれが得意とすることを認め合う場所にしていききたいと思います」。

一昨年の台風では、市民に親しまれ、たろやま会の活動場所でもあるたろやまの郷で倒木が発生。構成メンバーの「四街道フォレスト」が危険箇所を処理しました。メダカの会主催の草刈り機などの安全講習では、フォレストが講師を務め、千代田地区の自治会も参加し、地域との連携も図られています。



オンラインシンポジウム出演者。

写真中央が関口さん

人と人、地域、団体などの緩やかなつながり合い。災害時だけでなく普段からの地域づくりのために私たちの心に留めておきたいものです。

四街道みんなで
災害支援ネットワーク

「そのとき。連携の力で街を支えよう」



昨年の「四街道市みんなで災害支援を考えるつどい」から

四街道みんなで災害支援ネットワーク
<https://facebook.com/saigainett>

近年各地で相次いで大きな災害が発生しています。災害時の支援は、もはや国や行政、災害ボランティアセンターの取り組みだけでは十分ではないと考えられています。

地域で活動する団体や組織・企業などの資源や知識を持ち寄り、ネットワークをつくっていけば、被災者の日常を取り戻すための心強い手段になるのではないのでしょうか。

みんなで地域づくりセンターでは、昨年8月「四街道市みんなで災害支援を考えるつどい」を開催。ネットワークの必要性を参加した皆さんと確認し、昨年秋に「四街道みんなで災害支援ネットワークの会」を立ち上げました。現在市内外より32団体41人が登録しています。

会の活動目的は、「人と人、地域、団体が互に関心を持ち、いざという時に支え合える関係をつくること」です。

避難生活から復興に至るまで一人一人異なる必要な支援に寄り添い、一日でも早く日常を取り戻すには、地域の人や団

体の力が重要です。「避難所での子どもの勉強を見てほしい」といった身近な相談から「家を建て直す時の二重ローンはどうしたらいい？」という専門的なサポートまで、困った時の支援は嬉しいものです。それも、普段からつながっている顔見知りであったなら、さらに安心できます。関係性の輪が大きければそれだけ支援できることも増えます。自分たちにできなければ他の団体につなげましょう。複数の団体や個人が連携し合うことで大きな支援になり得るかもしれません。

そのときに備えて、自分たちができることを発信し、周りの団体や人を知るのは今日からでもできることです。

今後センターは事務局として他地域の事例の勉強会やメンバーの日頃の活動を発表する場を設けるほか、被災時に具体的に求められる支援についてもリサーチしていく予定です。皆さんの団体もこの災害支援ネットワークの会に参加しませんか。

おしらせ

地域づくりサロン2021

「みんなのコト」

～まちの出来事を自分ゴトに～



「みんなで地域づくり」は、まちの出来事を自分のコトとしてとらえることから始まります。一緒に「みんなのコト」を考えてみませんか？

～認知症のコト～ ※3回連続講座

- ① 6月22日(火) 11:20～12:40 学習会「認知症を知ろう」
- ② 7月30日(金) 13:30～16:00 講演会・交流会「認知症の人をサポートするには」
- ③ 8月10日(火) 10:00～11:30 交流会「地域でできることを考えてみよう」

場所：①わろうべの里 ②③四街道市文化センター会議室

定員：30人

～子どもたちのコト～

6月29日(火) 10:00～11:30 学習会「みんなが笑顔のまち 子ども条例」を知ろう！

場所：みんなで地域づくりセンター

定員：20人

～災害支援のコト～

5月に開催した「障害のある人の支援」に続き、今後も被災者のニーズをとらえた被災者支援について交流会を行う予定です。

※参加費無料。開催場所や申し込み方法など、詳細はセンターホームページ・Facebookをご覧ください。

みんなで28号

編集・発行：四街道市みんなで地域づくりセンター（四街道市政策推進課分室）

所在地：四街道市大日396 四街道市文化センター1階

開館日時：火～金および第1・3土 9：00～17：00

（休館は日・月・祝日と第1・3以外の土および年末年始）

電話：043（304）7065 メール：info@minnade.org

発行日：令和3年6月1日 発行部数：2,000部

ホームページ

Facebook



表紙の写真：緩やかなつながりを持つ
地域の皆さん。鷹の台で撮影